

日本道路

## 久松 博三社長



20年を振り返って  
政府建設投資が引き続  
き20兆円を上回る水準で  
堅調に推移しているが、  
民間建設投資は新型コロナ  
ナウィルスの影響による  
業績悪化を受け、企業の

設備投資マインドが慎重  
化している。  
業績については、今年  
度は多くの繰越工事をも  
つてスタートし、また、  
官庁受注も好調で、上期  
はコロナ禍の民間工事低  
調分を官庁受注で補っ  
た。手持工事量は豊富に  
確保できている。現場は、  
感染対策をしっかりとつ  
て業務・施工を行ってお  
り、止まることなく順調  
に消化が進んでいること  
に感謝している。このま

まで行つてほしいと思っ  
ている。  
21年の展望  
基本、現在の経営方針  
は大きく変わらないが、  
従業員満足度の向上、環  
境に対する方針を組み入  
れ、「スピードと徹底」  
を台言葉に、揺るぎない  
技術力で「道づくり」「街  
づくり」に貢献するSD  
Gs企業を目指す。

## 官庁十純民間で手持確保

注力分野  
総額15兆円に及ぶ「国  
土強靱化」「防災・減災、  
国土強靱化のための5か  
年加速化対策」が閣議決  
定した。その中身も道路  
工事の受注拡大を図る。官  
庁プラス純民間の互援受  
注をしっかりと確保し、  
手持ち工事量を増やして  
いきたい。  
施工体制

の老朽化対策が盛り込ま  
れており、期待は大きい。  
また、当社の強みである  
特殊工事、特殊技術、ス  
ポーツ関連事業を伸ば  
し、元請となる純民間工  
の役割分担も視野に入れ

ている。また、地域舗装  
会社で外国人技能実習生  
の雇用を検討している。  
北海道の会社で21年度か  
らの雇用を予定してい  
る。  
脱炭素社会に向けて  
中温化技術を更に進め  
た「アスファルト舗装材  
料の化石化燃料を使用し  
た低温混合技術」は長期  
的な開発テーマであり、  
大きな課題だ。2050  
年のCO<sub>2</sub>排出ゼロを目  
指していく。